

春休みは森へ出かけよう！

早春の「若葉の森」から若葉小3年生の皆さんへの手紙



↑オオイヌノフグリの花「星のひとみ」という美しい別名もある。まわりにはオオバコの白い花も咲いている。



←ヒメオドリコソウ 上部の葉の間にピンクの花が見えている。高さ 10 センチ以上になるが、この株はまだ小さい。

若葉小学校三年 × 組の皆さんから「若葉の森」の保全活動について質問の手紙をもらって返事を書いたのは、去年の十二月。あれからもう三カ月。皆さんはもうすぐ四年生になるんだね。

若葉の森でも、変化があるよ。冬の間、おとなしくしていた生きものたちが、動き出しているんだ。三月六日の日曜日、若葉町三丁目第三緑地の「青空広場」でひと休みしようと思えば座つたら、直径一センチもない、小さな青い花が地面近くに、いくつも咲いていた。

まるで青い宝石をまき散らしたみたいに見える。オオイヌノフグリの花だ。

●毛だらけの怪物？

そのすぐ近くに、高さ五センチぐらいだけど、ちよつと怪物みたいな姿の草が生えていた。体（ほんとうは葉っぱ）には、よく見ると毛がいっぱい。まだ寒いから、毛糸のセーターを着るように体を守っているんだね。オオイヌノフグリの写真でも、手前の葉に白い粒のように見えているのは、毛なんだ。

さつきは「怪物みたい」って言うけど、この草にはヒメオドリコソウという、かわいい名前がある。「小さな踊子のような草」という意味だね。

●アリとなかよくする理由

オオイヌノフグリとヒメオドリコソウは、秋から冬の初めころに種から芽を出して、春が来るのをじっと待っている。そして、春の気配（けはい）がすると、ほかの植物たちよりも早く花を咲かせる。

オオイヌノフグリとヒメオドリコソウの種には、アリが好きな物質（ぶっしつ）がくっついていて、これを食べるために、アリが種ごと地下の巣に運んでくれる。それによって、離れたところまで種がばらまかれて、しかも地中で芽を出すチャンスを持つことができるんだ。

オオイヌノフグリとヒメオドリコソウは、百数十年前に日本に入ってきた外来（がいらい）植物だ。それが今では、早春の野原でいちばん目

立つ花といつてよいぐらいふえている。アリとの「共同作戦」が成功したのだろうね。

●四月の森は大にぎわい

「たくさん種類の植物や動物がいつしよに生きていて、近所に住んでいる人が『気持ちがいいね』と感じる森」。「若葉の森」がそんな森であつてほしいと思つて保全活動をしている、と手紙に書いたたら、そこが「心のこりました」と皆さんは返してくれた。とてもうれしかった。

皆さんが四年生になる四月には、第三緑地「青空広場」は、三月初めよりも、ずっとたくさん種類の草木・鳥・虫で大にぎわい。となりの「桜広場」もサクラが満開のはず。春休みは「若葉の森」へ行ってみよう。

（大村哲夫）



ナナホシテントウがやってきた。このテントウムシは肉食で、小さなアブラムシを食べる。

花の履歴書 36

戸部英貞 (絵・文)

ウグイスカグラ (鶯神楽) スイカズラ科



Lonicera gracilipes var. glabra

立春も過ぎた一日、明るい陽射しに誘われ、多摩丘陵に春を探しに出かけてみたが、吹く風は冷たく、春は名のみで、コナラの芽も硬く、林はまるで真冬の様相を呈しており、思わず首をすくめながら雑木林を歩いた。

イスカグラが植えられてあり、初夏の頃には透き通るようなルビー色の果実を実らせ、子供らはグミがなつたと喜んで口にした。グミ科のナツグミやナワシログミのような渋みはなく、ほのかな甘酸っぱい味が当時の子供らには何よりのデザートだった思い出がある。

ウグイスカグラは産地によって変異が見られ、葉や茎に粗い毛のあるものもあり、これは変種としてヤマウグイスカグラと呼んでいる。また子房にまで毛のあるのはミヤマウグイスカグラとして区別している。

落ち葉を戻し、春はそこまで来ていることを確認し、急に暖かくなつた気分ですりも軽く歩を進めると、今度は枝先に沢山の蕾を付けたウグイスカグラが待っていた。何日か続いた暖かさに慌てて蕾を開いたのか、花を開いたものもあったが、フライングのためか、花の色は白っぽかった。

ウグイスカグラの名は、ウグイスが鳴く頃に花を咲かせ、その囀るウグイスの様が神楽を演ずる姿に似ているとして名付けられたと言いが、少し出来すぎた語源のようなくもする。また一説に、神楽ではなく蔓(かずら)が訛つたと言う説もあるがウグイスカグラは蔓ではないのでこれもしっくりしない。

多摩川でバードウォッチング

by 調布水辺の楽校



タビバリ



ハクセキレイ



マガモ オス



3羽の
ヒドリカモ



キジバト



カンムリカイツブリ

1月23日(土) 申込み数は13小学校
合計76名でしたが、実際には児童28
名、保護者26名、教員1名で計55名
スタッフ含め70名で実施しました。
インフルエンザが流行し、学級閉
鎖になった学校があり、キャンセル
がかなり出てしまったのが残念でし
た。

本年度の調布水辺の楽校の行事は
終わりました。来年度も年4回の予
定でご案内しますので、ぜひ参加く
ださい。

(水辺の楽校サポーター池ノ内)

見られた鳥
カイツブリ、カンムリカイツブリ、
カワウ(多数)、コサギ(多数)、
ダイサギ、アオサギ、コガモ、カル
ガモ、ヒドリガモ(多数)、オカヨ
シガモ、オオバン、ユリカモメ、セ
グロカモメ、ハクセキレイ、トビ、
キジバト、ドバト、ヒメアマツバメ、
ヒバリ、ヒヨドリ、モズ、ツグミ、
カワラヒワ、ムクドリ、ハシブトカ
ラス、ハシボソカラス、スズメ
以上27種



ひよどり



ひらがなで書くとしても可愛らしい小鳥のようですが、庭先に訪れる彼らの傍若無人ぶりにはどうも好きになれない方も多いのでは?

「オラオラ!ここはワシの縄張りじゃ!」と、可愛いメジロのために出しておいたミカンを房ごと持ち去るなど、私の大好きな「とりばん」というマンガの中でも彼らはもっぱら悪役です。

今年1月末に雪が降ったとき庭のヤツデの実が茎全体でうなだれてしまいました。雑木林でも枝が折れた木や実のところが多かったのが雪の影響は以外に大きかったようです。

最近そのしなつたヤツデの実を食べに来たヒヨドリがいまいた枯れた赤い実も、コン!と1度硬い所にたたきつけてから丸のみしていました。実が割れたかどうか定かではありませんが、まるでカラスなみの行動にビックリです。

(鍛冶)

たのかもしれない。因みにヤツデは花の少ない12月頃、白い雌しべと雄しべがぼやぼやとした花弁の無い花が咲くので小さなハチやハエがたくさん集まってくる面白い木です。

そのヒヨドリは捨ててあったチャイニーズブルーに付いて

ちょうふの崖線樹林を守る

入間・樹林の会

12月20日(日) 晴れ 参加者13名

初めての参加者を含みマテバシイ広場の下草刈り、三角地横のシュロの伐採、ツバキの森の落ち葉かきなどを分かれて作業した。秋にはできなかったマテバシイ広場の下草刈りやシュロが伐採され林内がすっきりしてよかった。陽あたりにキラソウが見られた。

1月17日(日) 晴れ 参加者14名

2班に分かれて方形枠調査を行った。初参加の人もいて方形枠調査の方法、測定について講師から説明があった。プチ違いはタブとマテバシイ、ヤエムグラとハコベの説明後、懇親会を行った。鳥がよく姿をみせメジロ、ヒヨドリ、コゲラ、エナガ、シロハラが確認できた。花は、サザンカ、ツバキ、イヌホウズキ、スイセン。実はマンリョウ、ヤブラン、ヤツデ、アオキ、ナキリスゲ



2月21日(日) 曇り 参加者8名
二手に分かれての作業。雨あがり坂道の水の流れる様子がよくわかり土留め柵を坂上まで作ることができた。大雨が雪の影響でツバキの森に太枝やシラカシの落枝が多かったので葉と枝に分け粗朶柵用の枝に分けた。花はツバキ、サザンカ。実はセンリョウ、ヤツデ。鳥はヒヨドリ、カラス、シジュウカラ。



粗朶柵



枝と葉をわける作業

カニ山の会

12月12日(土) 晴れ 参加者10名

今年の5月に根回しを行ったケンポナシの苗木をキャンプ場北側広場の北東角付近に移植。東樹林では天地返しを兼ねて腐葉土の場所を移した。



植え替えたケンポナシに支柱を立てる

1月16日(土) 晴れ 参加者10名

例年のように安全祈願の山開き。落ち葉かきの後キャンプ場で懇親会。

2月13日(土) 晴れ 参加者11名

今年度の雑木林ボラ講座生の初参加と公園課の職員2人の参加があった。女性陣と男性数人は落ち葉溜めを作り、先月掃き集めた落ち葉を入れた。その他の男性は常緑樹の剪定と1月18日の積雪により折れてひっかかっていた枝を落とした。これは高枝用ノコも届かず、ロープをかけた苦戦、なんとか落とすことが出来た。

ふりかえりでは、公園課職員と今後の管理の方針や地域ごとの管理計画の予定などについて意見交換をした。

(活動報告より)



折れた枝を落とす



野草園でゴイサギ発見

若葉の森3・1会

12月6日(日) 曇り 参加者7名

かに山会員の方1名が初参加。

第1緑地では、コンポスト柵を小枝を伐採して補強。六別坂落葉かき。ゴミ拾い。第1緑地と第2緑地間の階段の西斜面の側壁補修(前回)に引き続き、竹を用いて階段下の通路整備(東斜面に土留め、西斜面に側壁、通路左右の傾きを水平に)。第2緑地では、シュロ、アオキを伐採。



癒しのティータイム



ビナンカズラ



自然の芸術 (地衣類または粘菌) 通路の土留めと側壁

2月7日(日) 快晴 参加者7名



寒い日。雪の富士山を眺望。コンポスト柵は相当荒れていたのを追加し補強。六別坂の落葉かき。ゴミ拾い。前回、前回は第1緑地と第2緑地間の階段に伸びる通路整備。第



コンポスト柵補強杭打ち

2緑地では、雪害で竹や枝が通路を塞いでいたので除去。
◆環境活動交流会(2月19・21日)ではパネル展示により活動紹介(NOK)。溜める落葉溜めの製作、六別坂落葉かき、ゴミ拾いを行った。(NOK)

凸凹森の会

2月28日(日) 参加者8名

新しいメンバーも入り、定例活動を行いました。

予定エリアの手入れを始めようとしたら、敷地内の人目に付きにくい場所に誰かが入った形跡を発見しました。この緑地は普段は開放されていないので、子供たちが探検ごっこをするには魅力的かも知れません。

ところが、今回発見した形跡は微笑ましいものではなく、木や竹を切り出して通りからの見通しを遮るようなバリケードが作られていました。小型ノコギリやスコップも置き去りにされていたので、十代後半以上の人間の仕業だと思えます。ちよつとやり過ぎの感有りましたので、バリケードは撤去し、更に見通しよく、ヤブを刈り込みました。

このことを踏まえて、保全を損なわない範囲のルール作りについても考えておきたいと思いました。

この日は暖かい春の陽気でした。後半は皆でフキノトウを摘んだり、梅の花を愛でながらセイヨウカラシナを摘んだりして、お土産を収穫しました。

木の幹に変な物が付いているのを見つけたら、新メンバーがハラビロカマキリの卵だと教えてくれました。植物や鳥や昆虫に詳しい人がいると嬉しいです。(石原)



ハラビロカマキリ卵



セイヨウカラシナ摘み



フキノトウ

植物調べ ABC

3月5日(土) あくろすにて

講師：小澤正幸
(トキワ環境)



調布市の課題は標本の保管場所がないことだが、これまで10年以上も生き物調査を続けてきたグループ等からもデータを寄せてもらい、市民の調査データを収集・蓄積していく「データPJ」の活動を石川さんを中心に推進していくことになった。

何を知らなければいけないかによって色々な調査の方法があるが市民の植物調査データの蓄積には、標本が力強い味方となる。標本用植物採集の「七つ道具」を教わった。調査票がめれないよう表紙の付いた調査板ファイルなどもおすめの一つだそう。

自然の記録を残すために必要な正しいデータのとり方を知る講座が開かれた。



道路脇アスファルトにコスミレ？ タチツボスミレに比べると個体数はずっと少ない。



白い花を付けたナズナとセイヨウカラシナの若葉。採取した草は根つこの土を洗ってよく洗い。(野川高水敷にて)

子ども野鳥観察会

2月11日(木) 入間樹林地 ほか

講師：里厚雄 (日本野鳥の会会員)

見られた鳥

キジバト・ハクセキレイ・ヒヨドリ・ウグイス・メジロ・シジュウカラ・ジョウビタキ・ツグミ・アオジ・カワラヒワ・ムクドリ・ハシブトガラス 計12種



移動すると暖かな陽ざしがあるせいか飛び交うメジロやエサをついばむツグミが見られ、入間地域センター隣、梅が咲く畑でも色々な小鳥をじっくり観察することができた。

「塾で習った鳥を実際に見てみたい」と参加した子「そうだよね、えらい！」といったよにいた大人たちがうなずく。
チェックリストを片手に樹林内をそそぐと散策。常緑樹が多いせいか、なかなか鳥の姿が現れない。
NTT研修センター裏門へ

環境活動グループ 紹介展 2016

5.26(木)～6.1(水)

たづくり11F
みんなの広場

壁面パネル展示

調布の環境活動に係わる様々なグループのパネルでの活動紹介です。興味のある活動がありましたら、是非「ちょうふ環境市民会議」までお問い合わせ下さい。



アセビ
以前から境界に植えられていた可愛い花



ツルボの葉
環境市民会議にもこの花の大ファンが。



ムラサキケマン
春の雑木林の代表格か。



ガマガエル
旦那様がこんなに小さいとは！



ヤブカンゾウの若葉
いかにも美味しそうな若葉。



アマナの葉
チューリップの仲間？

うわー春です！
「22世紀の森づくり・神代」の雑木林(東京都の管理地)。3月8日の臨時調査日に行ってみると、そこらが春、はる！
更地に植樹して森(雑木林)を作った場所なのだが、バランスよく落葉樹を植えたことや、月4回という作業

「22世紀の森づくり・神代」の雑木林(東京都の管理地)。3月8日の臨時調査日に行ってみると、そこらが春、はる！
更地に植樹して森(雑木林)を作った場所なのだが、バランスよく落葉樹を植えたことや、月4回という作業

環境市民活動スケジュール

入間・樹林の会

原則毎月第3日曜に樹林の保全活動を行っています。参加希望者は直接入間地域センターへ。
●4/17(日) 9:30～12:30
●5/15(日) 9:30～15:00

カニ山の会

毎月第2土曜に自然広場で保全活動を行っています。野草園横直接集合
●4/9(土) 10:00～14:00頃
一般参加者募集！ ケンポナシ、コナラの移植を行います。
・キャンプ場カマドの利用
・野外での遊び
●5/14(土) 10:00～15:00

若葉緑地の会

原則毎月第2日曜に若葉町3丁目第3緑地で保全活動を行っています。参加希望者は直接現地へ。
●4/10(日) 9:30～12:00
●5/8(日) 9:30～12:00

若葉の森3・1会

原則毎月第1日曜に若葉町3丁目第1・2緑地で保全活動を行っています。参加希望者は直接現地へ。
●4/3(日) 9:30～12:00
●5/1(日) 9:30～12:00

凸凹森の会

●4/24(日) 10:00～12:00 開放
草刈りとタケノコ掘り 雨天中止
●5/22(日) 10:00～12:00 草刈
参加希望者は直接凸凹森へ。

先の5団体の保全活動問合せは
緑と公園課 042-481-7083

市民発 ちょうふの自然だより

◆「ちょうふの自然だより」はカンパとボランティアで支えられています。2009.3.15に設立された市民団体「ちょうふ環境市民会議」が自主発行しています。調布市内の身近な自然情報や市民の保全活動の記録、環境イベント案内、コラムなどを掲載、無料で配布しています。

発行：ちょうふ環境市民会議 連絡先：info@chofu-kankyo-shimin.org

“自然だより”の置き場所

◆地域福祉センター、たづくり11Fみんなの広場、調布市環境部(市役所8F)、あくろす2・3F、郷土博物館、実篤記念館、多摩川自然情報館のほか、神代植物公園植物多様性センター、野菜食堂みさと屋(布田)、ニワコヤ(仙川)、など。置き場所と応援カンパ募集中です！

◆サポーター会員募集！

年会費500円 郵便振替(00150-9-765663 ちょうふ環境市民会議)

※携帯メールでのお問合せには当方の返信が届かない場合があります。

◆この自然だよりは ちょうふ環境市民会議ホームページにも掲載、バックナンバーもご覧になれます。◆